

第1回愛媛地域医療ビジョン推進戦略会議 議事概要

1 日時 平成27年3月16日(月)19:00～

2 場所 県医師会会議室

3 出席者 委員7名、ワーキンググループ1名

4 議事

(1) 地域医療構想(ビジョン)策定方針等について

○ 事務局から策定方針等を説明。

(2) ワーキンググループによる調査・分析結果の報告

○ ワーキンググループから説明。

(3) その他意見交換

○ 本会議は、地域医療の方向性を決める非常に大切な会議だと思う。地域医療ビジョンをどのように策定するのか。国のガイドラインを見て進めたらよいか。

⇒【事務局】

基本的には国のガイドラインに沿った形で策定することとしている。しかしながら、国のガイドラインでは、疾病別には、がん、脳卒中、急性心筋梗塞の医療提供体制の検討を考えているが、本県ではそれを充実させ5疾病・6事業への対応を考えている。また、圏域内でおさまらない医療提供体制には、圏域を越えた広域的な調整を行う必要があると考えており、全県的なビジョンも策定することとしている。

○ 今回、全県的な現状分析をお聞きしたが、各圏域のビジョンはどうなるのか。

⇒【座長】

国のガイドラインどおりに策定すると、やはり現状と合わないところも出てくる。今回のビジョンは県民のためというところが大前提。その辺を地域の関係者で話し合っ各圏域のビジョンを策定していくことになる。

⇒【委員】

今回のビジョン策定では、2025年において医療・介護がしっかりと提供できるよう将来にわたって持続可能な医療提供体制をつくるのが大きな目的。国は、オールジャパンでビジョン策定を考えているが、それぞれ各県各圏域の特性もある。その部分は地域で独自性を出しながらビジョンを作っていくというのが命題。

県としては、国の枠組みに先駆けて地域で議論し現場起点でやっていくことが求められていると思う。また、ガイドラインを待つことなく議論を始めるという事で、議論が行ったり来たり、試行錯誤があると思うが、委員の皆さまには、御協力をお願いしたい。

⇒【座長】

私も同感である。県の取組みは慧眼であると思う。国は県にやってくれというが、県は県民一番で取り組んでほしい。

ビジョンの実現には最短でも6年かかるものであり、病床の再編に当たっては、流動性が必要ではないか。

○ 現状分析等はどういう風にしていくか。やはり地域の問題を抽出しないと対策を考えることが出来ない。やはり地域の課題抽出が大事。そのためには、ワーキンググループの構成員は広く人材を集めてみたいと思う。

○ 戦略会議の次回開催は、予定では10月になっており、少し空きすぎていると思うがどうか。

⇒【座長】

スケジュールは一応の案であり、柔軟に会議を開催していこうと思う。

○ 地域ごとに求められているものが違っている。私は薬剤師会という立場であるが、そんなことを感じている。地域で必要なものを見つけることが大切だと感じた。

○ 地域医療ビジョン調整会議等のメンバーはどうなるのか。

⇒【座長】

調整会議のメンバー等は、これから決めていく。

⇒【事務局】

ガイドラインでは、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、住民代表などが示されており、概ねそれに沿って決めていくことになる。

○ 南予などでは高速道路も延伸され、救急車のも一時間で西予市から松山市まで行くこともできる。圏域の見直しも併せて検討して欲しい。

○ 構想策定について、現場の声を拾い上げながら、これを基に議論していけば、5疾病・6事業を縦糸と横糸で紡いだビジョンが出来る。愛媛に実情に沿ったビジョンとするため、これからは、医療圏毎に地域医療ビジョン調整会議を立ち上げ、調整会議と情報共有しながら柔軟に対応していくことなると思うが、調整会議を支援するワーキンググループの構成員については、今後とも皆様と相談しながら決めていきたい。

⇒【座長】

ワーキンググループの構成員については、愛媛大学、県、医師会で検討したい。

また、4月の人事異動により安川委員が副学長になることになっているが、私としては留任をお願いしたいと思うがどうか。

⇒【委員】

次期学部長は、基礎系で地域医療の経験も少ないこと。また、副学長となっても地域医療担当という職務も拝命したことから、引き続きやらせていただければと思う。

⇒【委員】

是非、留任していただければ有難い。また、医師派遣の観点からも、是非、新病院長も戦略会議に入っていただきたい。

⇒【座長】

それでは、そういう方向でお願いしたいと思う。